

名取市職員による公共交通通勤 チャレンジデー参加状況調査報告書

1. 調査概要

令和 5 年 9 月～令和 6 年 1 月までの期間実施した「公共交通通勤チャレンジデー」の参加状況を詳細に把握するとともに、その成果・課題を分析し、市民や市内事業者への公共交通利用促進の働きかけ(モビリティ・マネジメント)に活用するためアンケート調査を実施した。

【対象職員】

令和 5 年 5 月 18 日に実施した通勤実態調査にて対象となった一般職員等(任期付職員、再任用職員、派遣職員) 491 人

※保育士,消防職,会計年度任用職員,業務委託により当市に派遣されている職員除く

【調査期間】

令和 6 年 2 月 16 日(金)～令和 6 年 2 月 29 日(金)

【回収数】

アンケート回答者数 392 人 (回答率:約 79.8%)



宮城県内自治体初!
「エコ通勤優良事業所認証」を取得



名取市マスコットキャラクター
「カーナくん」

企画部 政策企画課

令和 6年 3月

2. 公共交通通勤チャレンジデー実施概要

【背景・目的】

地域公共交通の維持・確保に対する意識の向上及び、市職員の健康増進を図るとともに、公共交通の利用に係る課題や問題点の洗い出しを行い、今後予定している市民や市内事業所への公共交通利用促進の取組(モビリティ・マネジメント)の参考とすることを目的に、市民等に先行して市職員による「公共交通通勤チャレンジデー」を実施したものの。

【対象職員】

一般職員等(任期付職員、再任用職員、派遣職員)

※保育士消防職,会計年度任用職員,業務委託により当市に派遣されている職員除く

※可能な範囲での協力をお願いしたものであり、こどもの送迎や、身体上の都合等により自家用車でないと通勤が困難な職員を除く

【実施期間】

令和5年9月～令和6年1月までの月2日程度

①毎月第4金曜日

②市役所庁舎、近隣公共施設等でのイベント開催により混雑が予想される日

【実施方法】

各職場まで自家用車以外の交通手段で通勤する。

※健康増進・ゼロカーボンシティ宣言の達成に向けた環境負荷の低減にもつながることから、「自転車」・「徒歩」で通勤した場合でも、公共交通通勤チャレンジデーに参加した取扱いとした。

3. 「公共交通通勤チャレンジデー」プレスリリース

愛されるふるさと なとり
～共に創る 未来へつなぐ～



Press Release



報道各社 各位



令和 5 年 9 月 1 日
名取市企画部政策企画課

宮城県内自治体初！

～名取市役所がエコ通勤優良事業所として認証されました～

この度、令和 5 年 8 月 31 日付で、エコ通勤に関して高い意識を持ち、エコ通勤に関する取組を積極的に推進している事業所（エコ通勤優良事業所）として、名取市役所が宮城県内自治体で初めて認証・登録されましたのでお知らせします。

名取市役所の主な取組み

・名取市職員による公共交通通勤チャレンジデーの実施

令和 5 年 9 月～令和 6 年 1 月までの毎月第四金曜日及び、市役所・近隣公共施設等でイベントが開催され、道路の混雑が予測される日の月 2 日程度を「公共交通通勤チャレンジデー」に設定し、自家用車以外の電車やバス、自転車等で通勤する取組。

また、「公共交通通勤チャレンジデー」実施日は、「ノー残業デー」に設定し、職員のワーク・ライフ・バランスの推進及び、更なる健康増進を図ります。

・名取市職員による公共交通通勤チャレンジデーの実施結果の分析・活用

「公共交通通勤チャレンジデー」で明らかとなった課題・成果等を分析し、検証を行います。その結果について、市 HP に公表するとともに、今後本市全体で予定している公共交通利用促進の働きかけ（モビリティ・マネジメント）に活用します。

※名取市職員による「公共交通通勤チャレンジデー」の 9 月実施日

- ①令和 5 年 9 月 8 日（金）
- ②令和 5 年 9 月 22 日（金）

市長コメント

宮城県内自治体として初めて「エコ通勤優良事業所」に認証され、光栄に思います。公共交通通勤チャレンジデーを皮切りに、市職員が率先してエコ通勤に取り組むことで、健康増進やワーク・ライフ・バランスの推進を図るとともに、環境負荷の低減につなげてまいります。

4. 公共交通通勤チャレンジデーの現状・課題、今後の方向性

《本市の現況》

公共交通通勤チャレンジデー参加状況調査結果から見えてきたもの

□ 1回でも公共交通通勤チャレンジデーに参加した職員の割合

・ 37.3% (183人 / 491人)

□ 公共交通通勤チャレンジデーの趣旨・目的の浸透率

・ 公共交通通勤チャレンジデー実施前後におけるアンケート調査において、「公共交通サービスを維持・確保するため、より多くの人に利用してもらえるよう利用促進の取組を行い、みんなで公共交通を支えるという気運を醸成することが重要である」と回答した者の割合

・ 実施前：82.6% 実施後：76.8% (△5.8%)

□ 職員が通勤手段に自家用車を選択する理由

・ 勤務場所まで直接通勤できる交通手段がない
 ・ 出勤前後に所要を済ませることができるとや乗換を必要としないこと等、速達性や効率性を重視した結果

・ 自家用車出勤をしている職員の割合：78.6%

□ 路線バス等の運行ルートについて

・ 通勤時間帯に合う便が無いことや、市内全域を対象に運行しているA I デマンド交通「なとりんくる」の運行時間は、朝9時～夕4時までのため出勤時間に利用できない。

・ バス停が近くに無いため参加できなかった市内居住職員：11名

・ (朝) 通勤に間に合う便が無いと回答した市内居住職員：24名

・ (夕) 通勤に合う便が無いと回答した市内居住職員：12名

《本市の課題》

課題

□ 公共交通通勤チャレンジデー参加者数

・ 公共交通の維持・確保に加え、「エコ通勤」による環境負荷の低減を主な目的として、自転車や徒歩による参加も認める取扱いとしたが、思うように参加者数が伸びなかった。

□ 公共交通通勤チャレンジデー実施日について

・ R5.9～R6.1の毎月第4金曜日及び、市役所周辺施設の混雑が予想される日を「公共交通通勤チャレンジデー」に設定したが、業務繁忙時期や悪天候に重なり、参加者しがたい状況にあった。

□ 公共交通利用にかかる運賃負担について

・ 公共交通通勤チャレンジデーに参加した際の運賃に対する自己負担

□ 公共交通通勤ができない職員の気まずさ

・ こどもの保育所送迎や心身上の都合により、自家用車でないと通勤できない職員より、「気まずさ」を感じるがあったとの声が寄せられた。

□ 公共交通の運行体系と勤務時間の不整合

・ 自宅近くにバス停が無い職員がおり、自宅まで迎えに来るA I デマンドバス「なとりんくる」を利用しようとする、出勤時間8:30に間に合わない、また帰宅時間17:15～には運行を終了している。

《今後の方針》

方針1 公共交通通勤チャレンジデーの趣旨・目的の更なる周知

□ 公共交通の維持・確保に対する意識醸成としての「モビリティ・マネジメント」の更なる推進

□ 健康増進や環境負荷低減につながる取組であるため、公共交通のほか、自転車利用の推奨等、総合的な取組を展開

方針2 公共交通通勤チャレンジデーの在り方について

□ 実施日を定めるのではなく、「月〇回や、週〇回」など、個人裁量で参加できるよう改善

□ 自家用車でないと出勤できない職員に対する理解の醸成

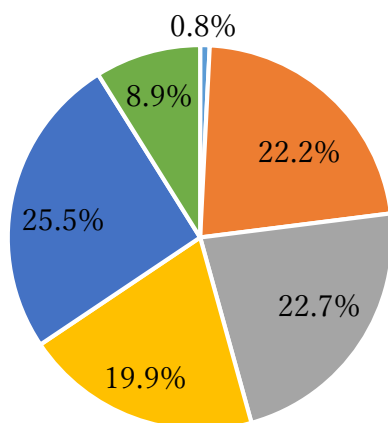
方針3 働きやすい職場環境の整備について

□ 働き方改革の推進に合わせ、公共交通を利用して出勤しやすくなるよう時差出勤やフレックスタイム制の導入検討

□ 公共交通通勤チャレンジデー参加者に対するインセンティブ付与の検討

5. 参考データ

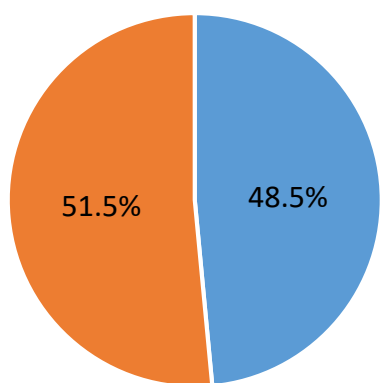
(1) 年代について(R6.2.1 時点) N=392



選択肢	回答件数	割合(%)
10代	3	0.8%
20代	87	22.2%
30代	89	22.7%
40代	78	19.9%
50代	100	25.5%
60代	35	8.9%
70代	0	0
計	392	100.0%

■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代

(2) 居住地域について(市町村別) N=392



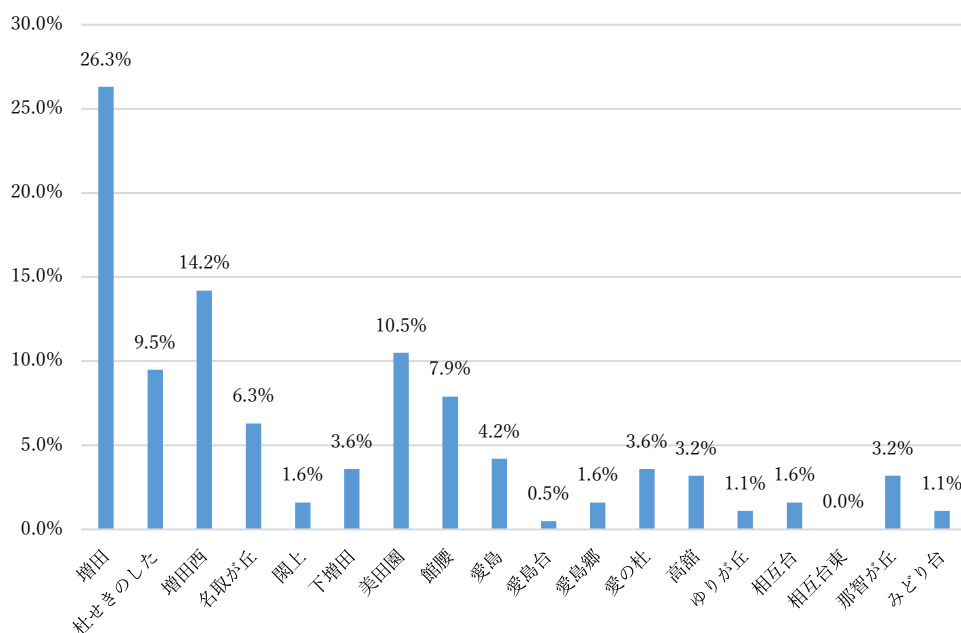
■ 名取市内 ■ 名取市外

選択肢	回答件数	割合(%)
名取市	190	48.5%
仙台市	160	40.8%
岩沼市	21	5.5%
柴田町	4	1.1%
亘理町	3	0.8%
塩釜市	3	0.8%
多賀城市	3	0.8%
大河原町	2	0.5%
角田市	1	0.2%
村田町	1	0.2%
美里町	1	0.2%
富谷市	1	0.2%
利府町	1	0.2%
大崎市	1	0.2%
県外	0	0
市外(小計)	202	51.5%
計	392	100.0%

【Point】

- ・半数以上の職員が市外から通勤している状況。
- ・自宅から鉄道駅までの一次交通として自家用車や路線バス等を利用する必要がある市町村もあり、自家用車通勤と比較し、公共交通を利用した方が、通勤時間が伸びるケースが見受けられた。

(2-1)市内居住者の居住地区【(2)で名取市を選択】 N=190

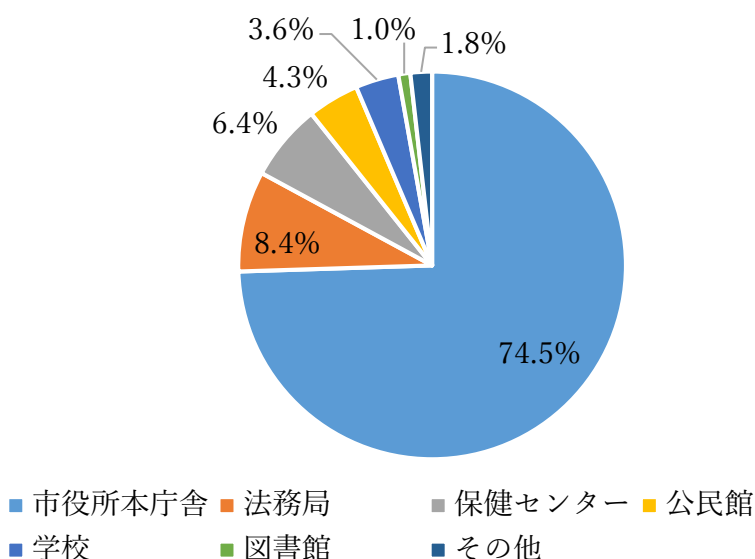


選択肢	回答件数	割合(%)
増田	50	26.3%
杜せきのした	18	9.5%
増田西	27	14.2%
名取が丘	12	6.3%
閑上	3	1.6%
下増田	7	3.6%
美田園	20	10.5%
館腰	15	7.9%
愛島	8	4.2%
愛島台	1	0.5%
愛島郷	3	1.6%
愛の杜	7	3.6%
高館	6	3.2%
ゆりが丘	2	1.1%
相互台	3	1.6%
相互台東	0	0
那智が丘	6	3.2%
みどり台	2	1.1%
計	190	100.0%

【Point】

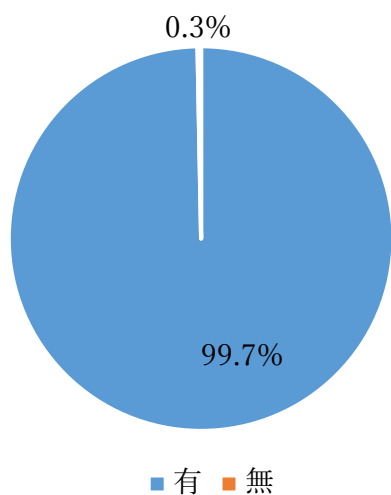
- ・ 増田地区に居住している職員が多く、なとりん号路線が名取駅を中心とした運行ルートとなっているため、公共交通を利用できるが、利用した場合、通勤時間が増える傾向にある。そのため、普段自家用車通勤の職員の多くは徒歩や自転車で公共交通通勤チャレンジデーに参加した。
- ・ 増田西地区など、西側の地区においてなとりん号や宮城交通の路線バスで通勤する必要があり、乗継ぎが発生してしまうことから、手軽に移動できる自家用車利用に流れてしまった。

(3)勤務場所 N=392



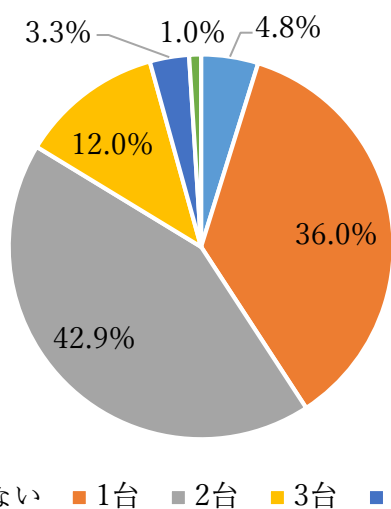
選択肢	回答件数	割合(%)
本庁舎	292	74.5%
法務局	33	8.4%
保健センター	25	6.4%
公民館	17	4.3%
小中学校	14	3.6%
図書館	4	1.0%
その他	7	1.8%
計	392	100%

(4)運転免許証の有無について **N=392**



選択肢	回答件数	割合(%)
有	391	99.7%
無	1	0.3%
計	392	100.0%

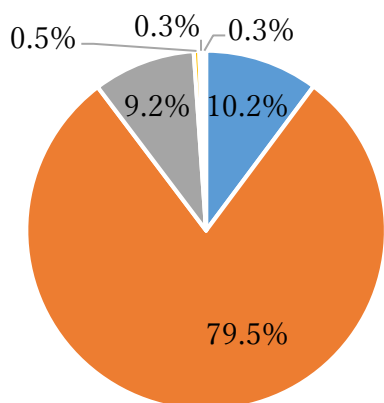
(5)世帯における自家用車の保有台数 **N=392**



選択肢	回答件数	割合(%)
所有していない	19	4.8%
1台	141	36.0%
2台	168	42.9%
3台	47	12.0%
4台	13	3.3%
5台以上	4	1.0%
計	392	100%

■ 所有していない ■ 1台 ■ 2台 ■ 3台 ■ 4台 ■ 5台以上

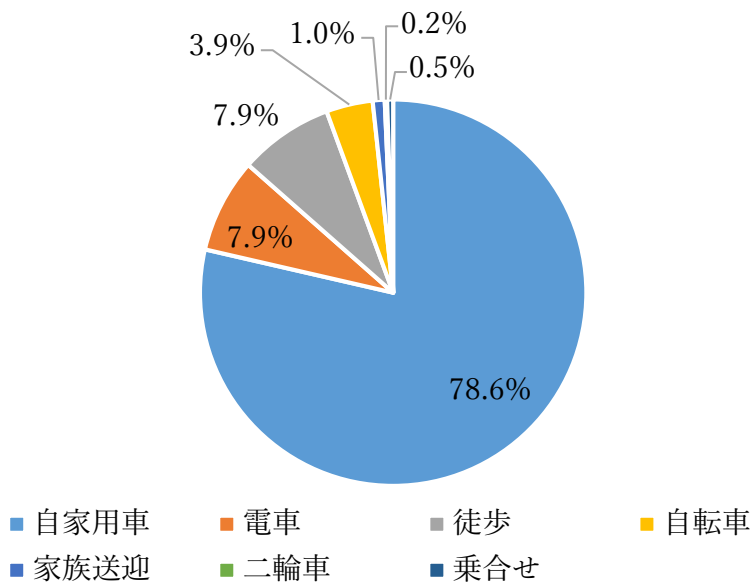
(6)回答者が自由に利用できる自動車の保有台数 **N=392**



選択肢	回答件数	割合(%)
所有していない	40	10.2%
1台	312	79.5%
2台	36	9.2%
3台	2	0.5%
4台	1	0.3%
5台以上	1	0.3%
計	392	100.0%

■ 所有していない ■ 1台 ■ 2台 ■ 3台 ■ 4台 ■ 5台以上

(7)現在の主な交通手段について **N=392**

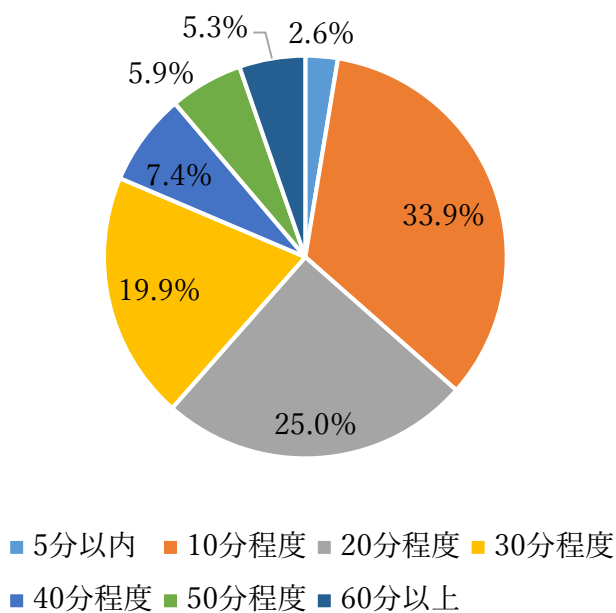


選択肢	回答件数	割合(%)
自家用車	308	78.6%
電車	31	7.9%
徒歩	31	7.9%
自転車	15	3.9%
家族送迎	4	1.0%
二輪車	1	0.2%
乗合せ	2	0.5%
計	392	100.0%

【Point】

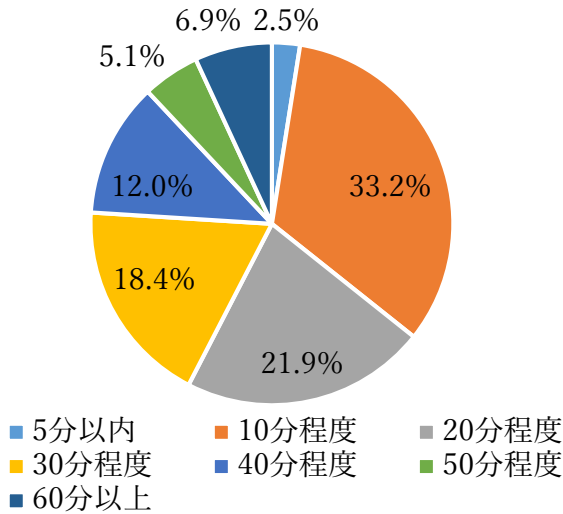
- ・本市西部山手団地に居住している職員は、自家用車で通勤している。その職員が公共交通チャレンジデーの日に「路線バス」・「鉄道」を乗り継いで出勤したが、乗換えが面倒・運賃が高む、余計に時間が掛かってしまったという声が挙げられている。
- ・名取市内居住者（N=190）の内訳
自家用車143名、徒歩30名、自転車12名、電車1名、二輪車1名、家族送迎2名、その他1名
→子ども送迎など様々な要因はあるものの自家用車中心の通勤実態である。

(8)通勤の所要時間について教えてください。(行き) **N=392**



選択肢	回答件数	割合(%)
5分以内	10	2.6%
10分程度	133	33.9%
20分程度	98	25.0%
30分程度	78	19.9%
40分程度	29	7.4%
50分程度	23	5.9%
60分以上	21	5.3%
計	392	100.0%

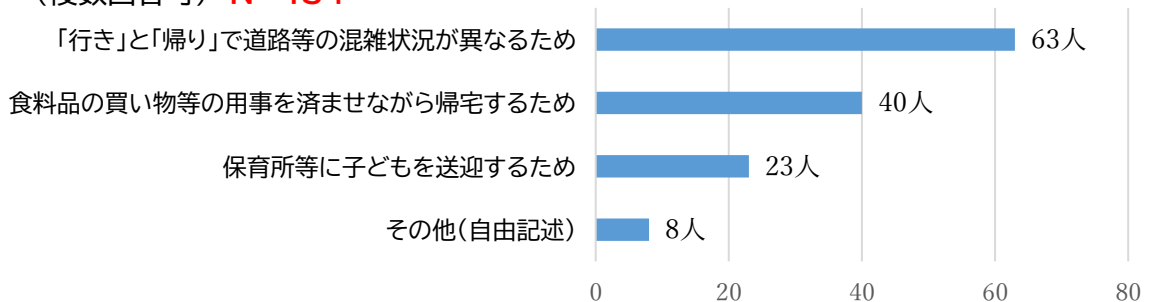
(8)通勤の所要時間について教えてください。(帰り) **N=392**



選択肢	回答件数	割合(%)
5分以内	10	2.5%
10分程度	130	33.2%
20分程度	86	21.9%
30分程度	72	18.4%
40分程度	47	12.0%
50分程度	20	5.1%
60分以上	27	6.9%
計	392	100.0%

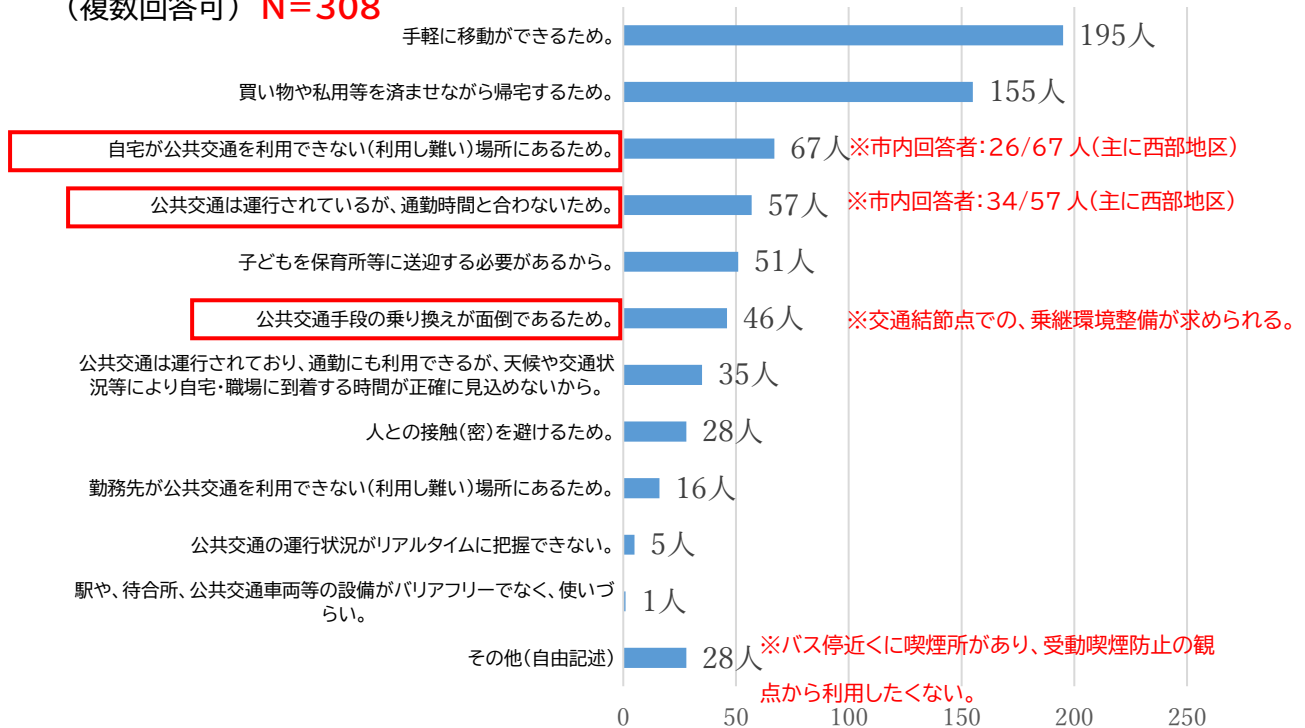
(8-1)行きと帰りの通勤時間が異なる場合、その理由について教えてください。

(複数回答可) **N=134**



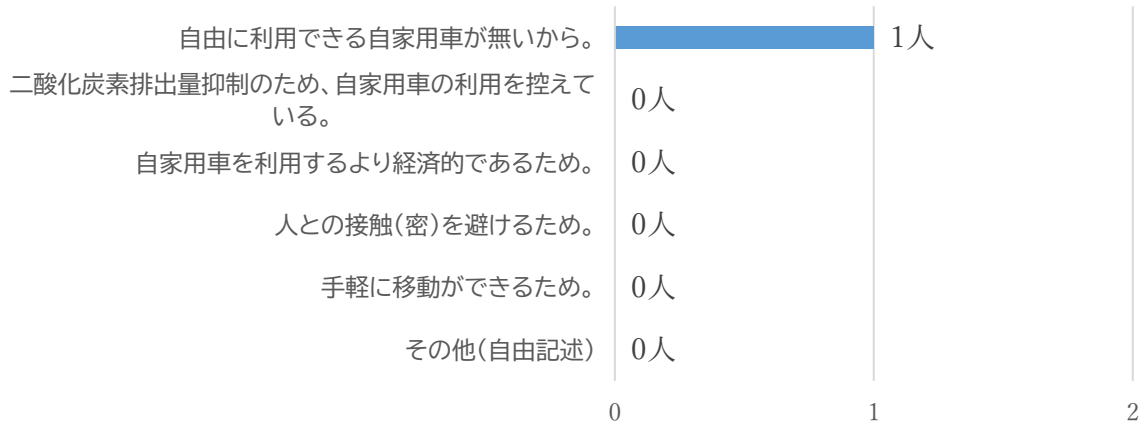
(9)自家用車通勤の方に伺います。通勤に自家用車を利用する理由について。

(複数回答可) **N=308**



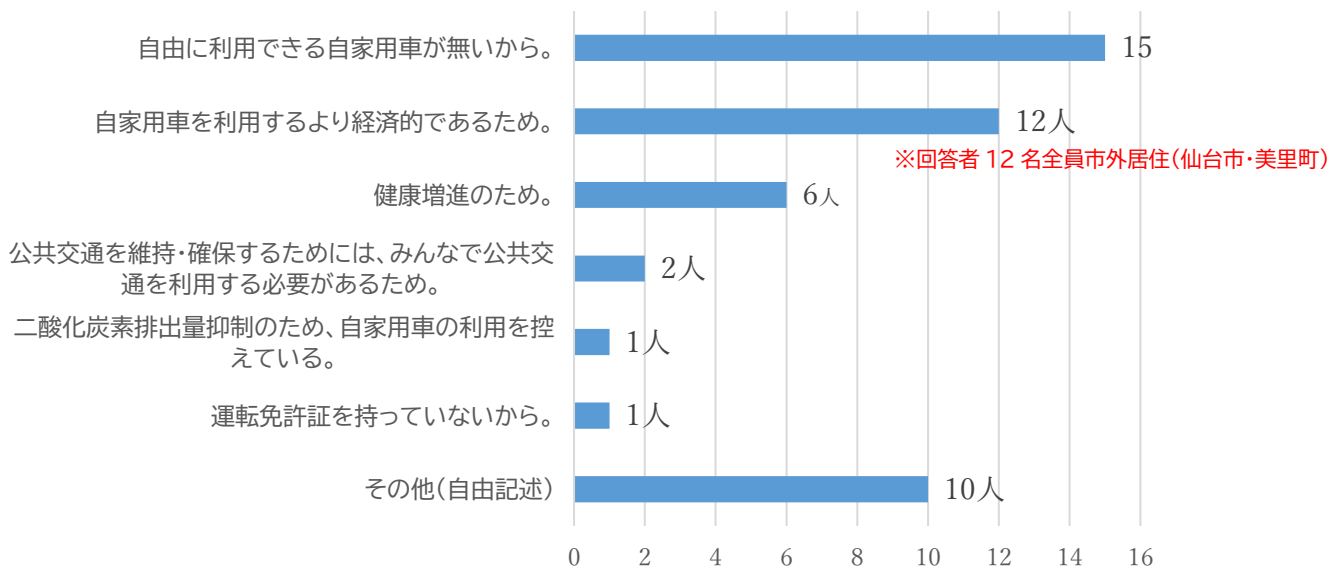
(10) 二輪車通勤の方に伺います。通勤に二輪車を利用する理由について。

(複数回答可) **N=1**



(11) 電車・路線バス通勤の方に伺います。通勤に電車・路線バスを利用する理由について。

(複数回答可) **N=31**

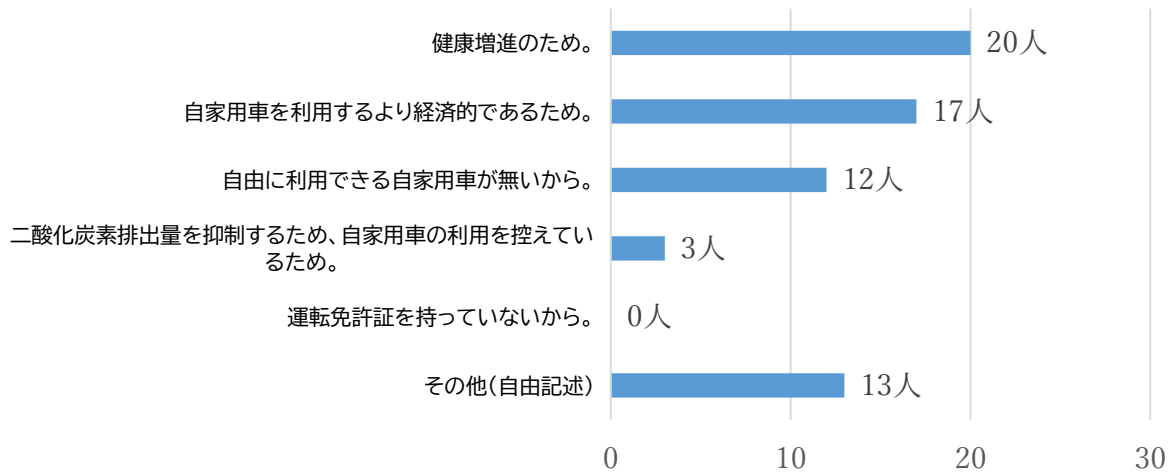


【Point】

- ・電車通勤者の多くは、通勤時間帯の道路混雑を避けるため、公共交通で通勤している実態。
- ・公共交通運賃について、市内居住者では職場まで乗継等により運賃が高くなってしまおうという意見があったが、「自家用車よりも経済的だから」と回答した者の多くは、市外居住者であり、通勤距離が長いほど経済的なメリットを受けやすい。

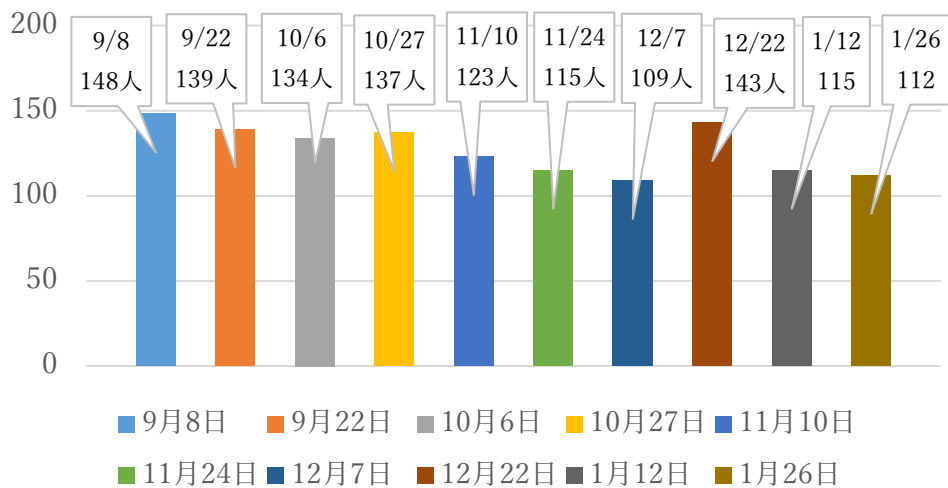
(12) 徒歩・自転車通勤の方に伺います。徒歩・自転車で通勤する理由について。

(複数回答可) N=46



(13) 公共交通通勤チャレンジデーの参加状況について N=491

(実施日別参加状況)



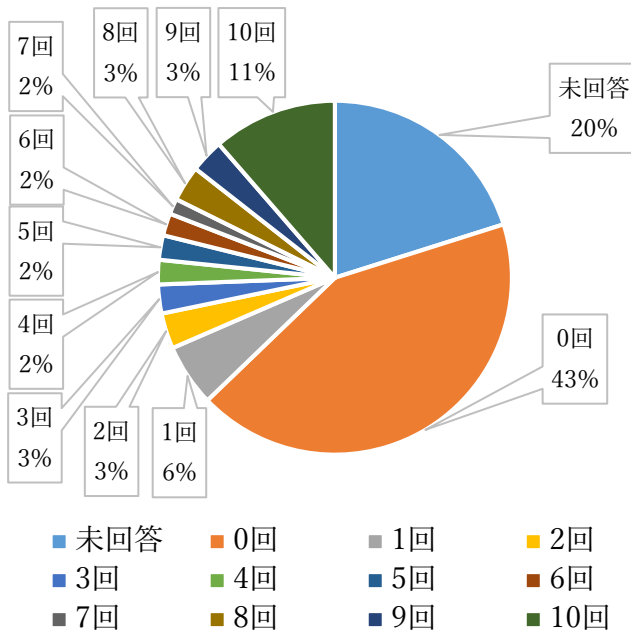
名取市内居住地区別参加率

市町村別参加率 (名取市外)

	人数			割合	
	全体	参加者	非参加者	参加率	非参加率
仙台市	160	74	86	46.3%	53.7%
塩竈市	3	1	2	33.3%	66.7%
角田市	1	0	1	0%	100.0%
多賀城市	3	0	3	0%	100.0%
岩沼市	21	10	11	47.6%	52.4%
大崎市	1	0	1	0%	100.0%
大河原町	2	2	0	100.0%	0
村田町	1	1	0	100.0%	0
柴田町	4	1	3	25.0%	75.00%
亘理町	3	0	3	0%	100.0%
利府町	1	0	1	0%	100.0%
富谷市	1	0	1	0%	100.0%
美里町	1	1	0	100.0%	0.0%
計	202	90	112	44.6%	55.4%

	人数			割合	
	全体	参加者	非参加者	参加率	非参加率
増田	50	34	16	68.0%	32.0%
社せきのした	18	14	4	77.8%	22.2%
増田西	27	15	12	55.6%	44.4%
名取が丘	12	4	8	33.3%	66.7%
関上	3	0	3	0%	100.00%
下増田	7	3	4	42.9%	58.1%
美田園	20	9	11	45.0%	55.0%
館腰	15	5	10	33.3%	66.7%
愛島	8	2	6	25.0%	75.0%
愛島台	1	0	1	0%	100.00%
愛島郷	3	1	2	33.3%	66.7%
愛の杜	7	1	6	14.3%	85.7%
高館	6	2	4	33.3%	66.7%
ゆりが丘	2	0	2	0%	100.00%
相互台	3	1	2	33.3%	66.7%
那智が丘	6	1	5	16.7%	83.3%
みどり台	2	1	1	50.0%	50.0%
計	190	93	97	48.9%	51.1%

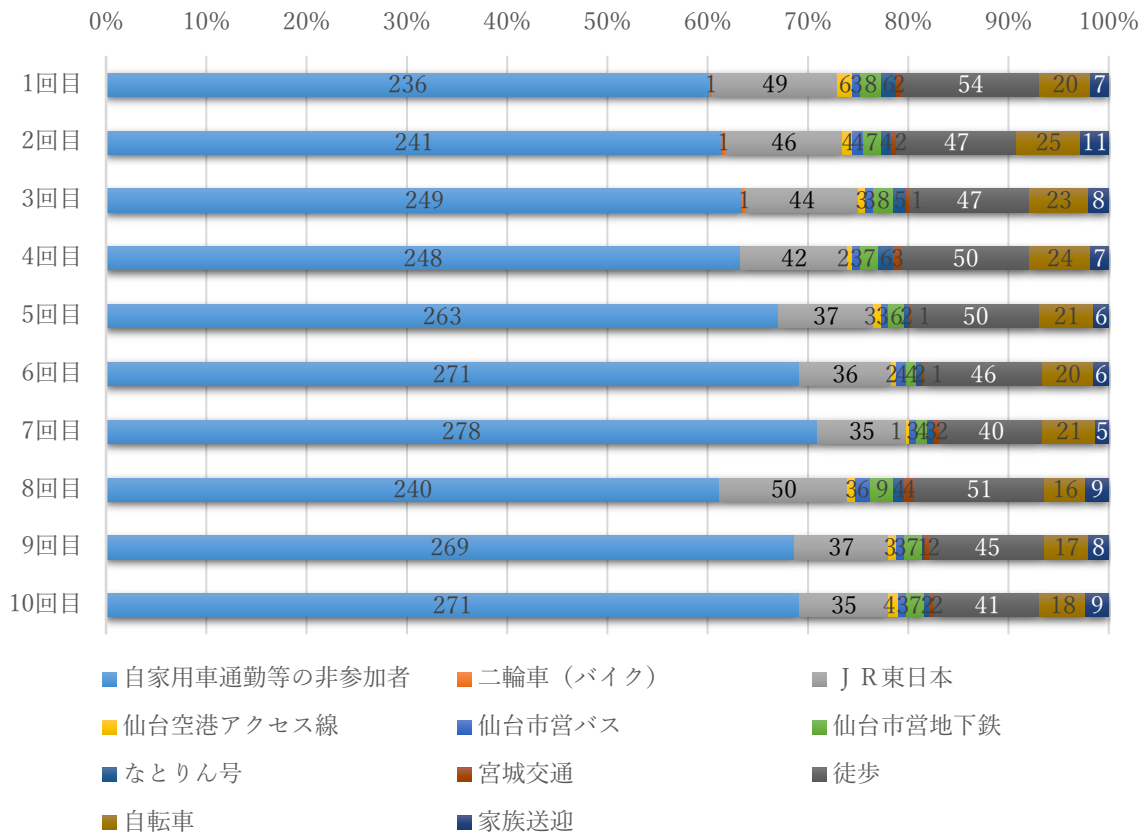
(参加回数)



選択肢	回答件数	割合 (%)
未回答	99人	20.1%
0回	209人	42.5%
1回	28人	5.7%
2回	16人	3.3%
3回	13人	2.6%
4回	11人	2.2%
5回	11人	2.2%
6回	10人	2.0%
7回	7人	1.4%
8回	16人	3.6%
9回	15人	3.0%
10回	56人	11.4%
計	491人	100.0%

【Point】
 ・1回でも公共交通通勤チャレンジデーに参加した職員の割合：37.3% (183人 / 491人)

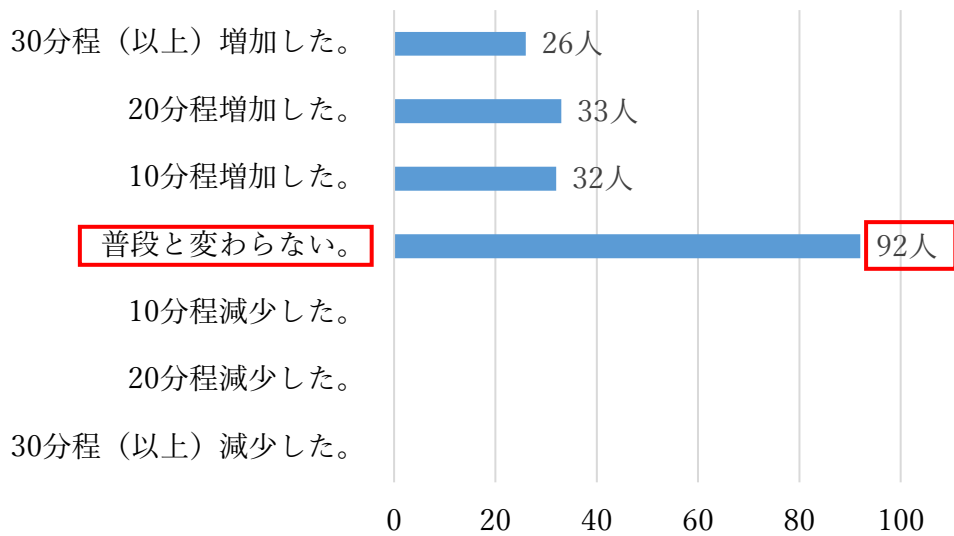
(14)公共交通通勤チャレンジデー当日の通勤手段について N=392



【Point】

- ・電車通勤者の多くは、通勤時間帯の道路混雑を避けるため、公共交通で通勤している実態。
- ・公共交通運賃について、市内居住者では職場まで乗継等により運賃が高んでしまうという意見があったが、「自家用車よりも経済的だから」と回答した者の多くは、市外居住者であり、通勤距離が長いほど経済的なメリットを受けやすい。

(15) 公共交通を利用した日の通勤時間は、普段と比較して概ねどの程度増加又は減少しましたか。 **N=192**

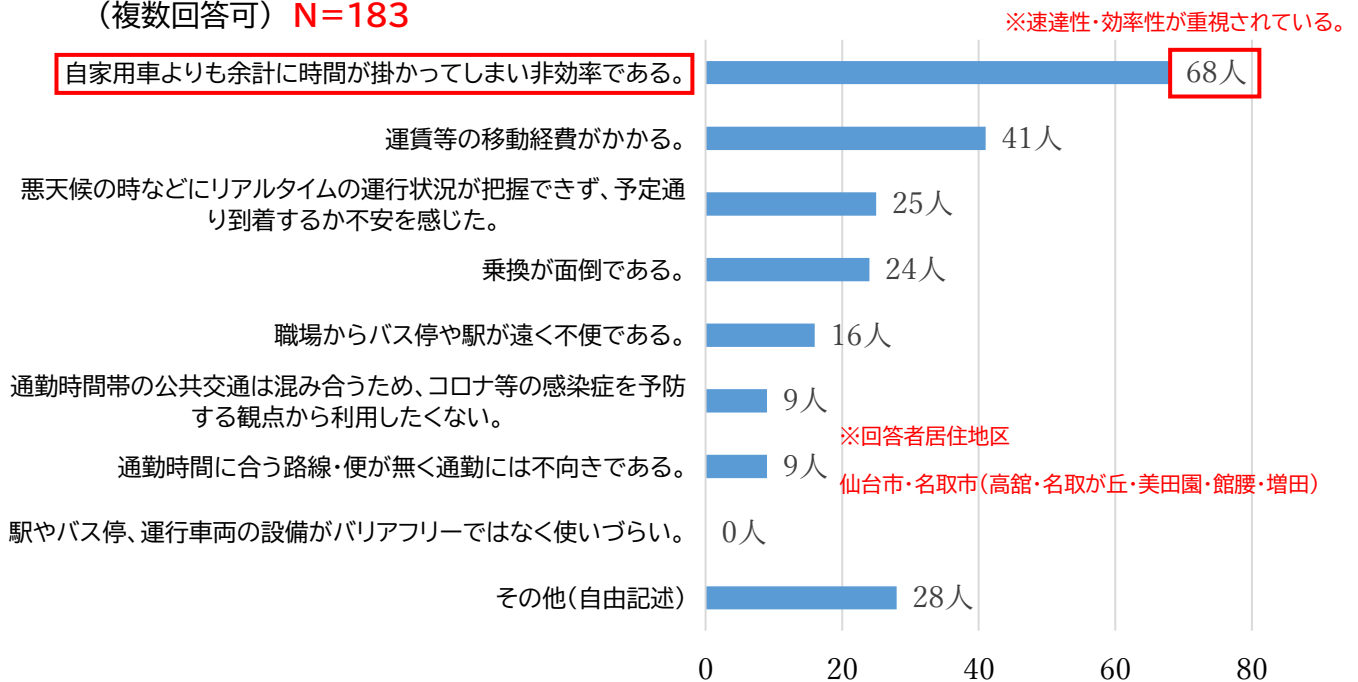


【Point】

- ・多くの職員が速達性を重視しており、最も早く職場まで通勤できる手段を選択している状況。普段、自家用車で通勤している職員が公共交通を利用した場合、普段よりも時間が掛かってしまう実態があった。

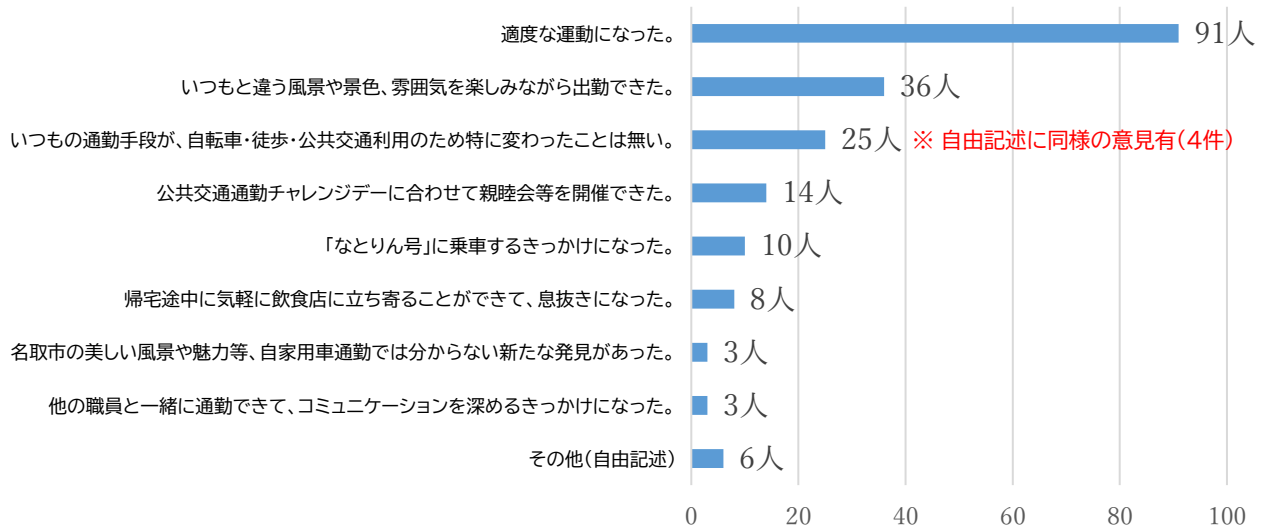
(16) 実際に通勤手段として公共交通を利用してみて不便と感じた点を教えてください。

(複数回答可) **N=183**



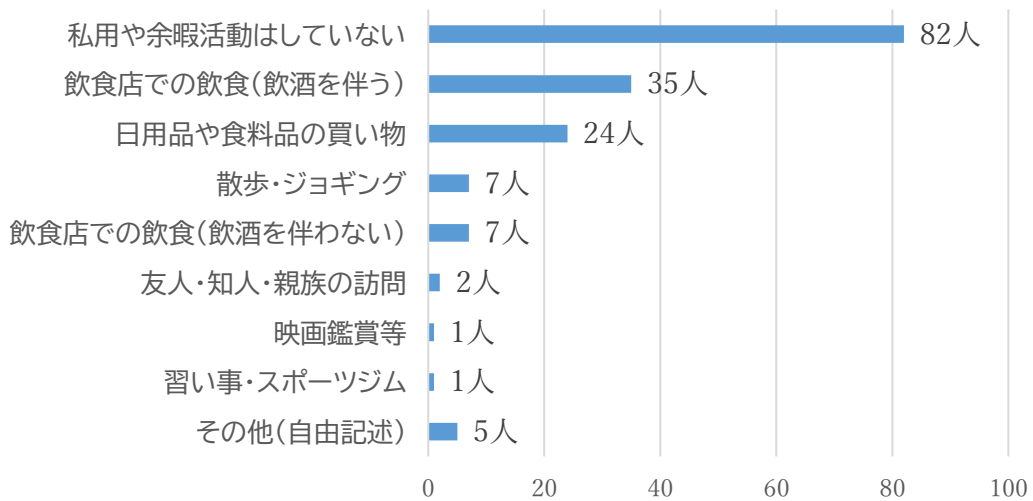
(17)実際に通勤手段として公共交通を利用してみて良かった点を教えてください。

(複数回答可) **N=183**

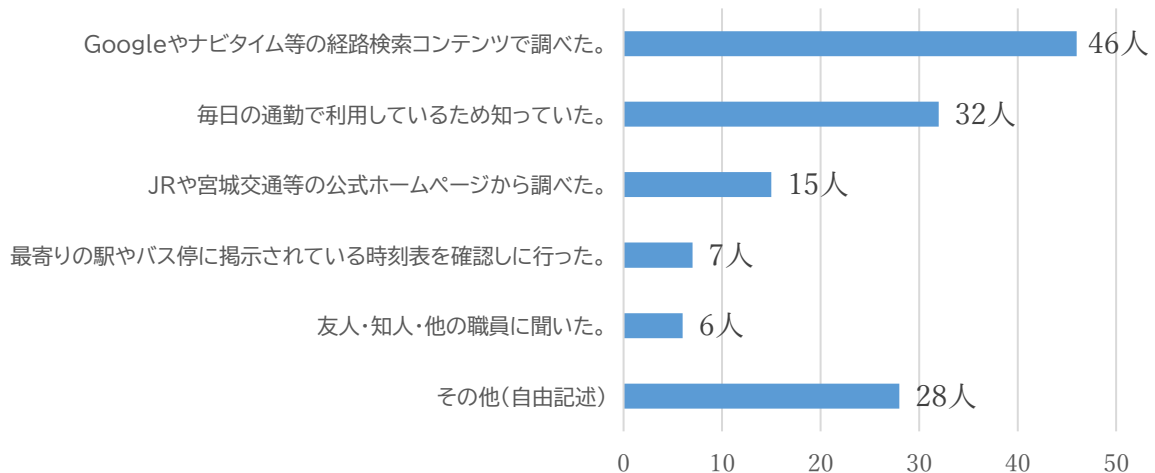


(18)公共交通による出勤前や退勤後に、何らかの私用や余暇活動をしましたか。

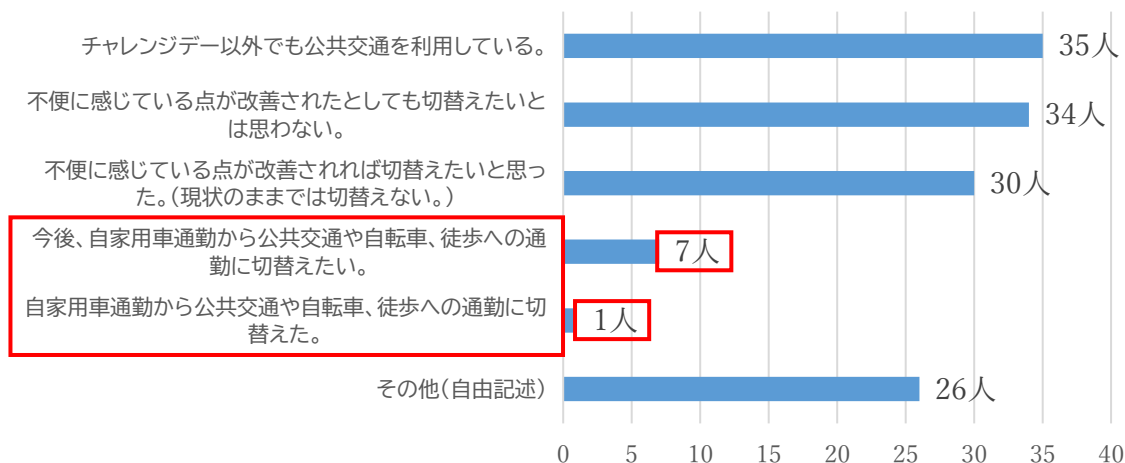
(複数回答可) **N=183**



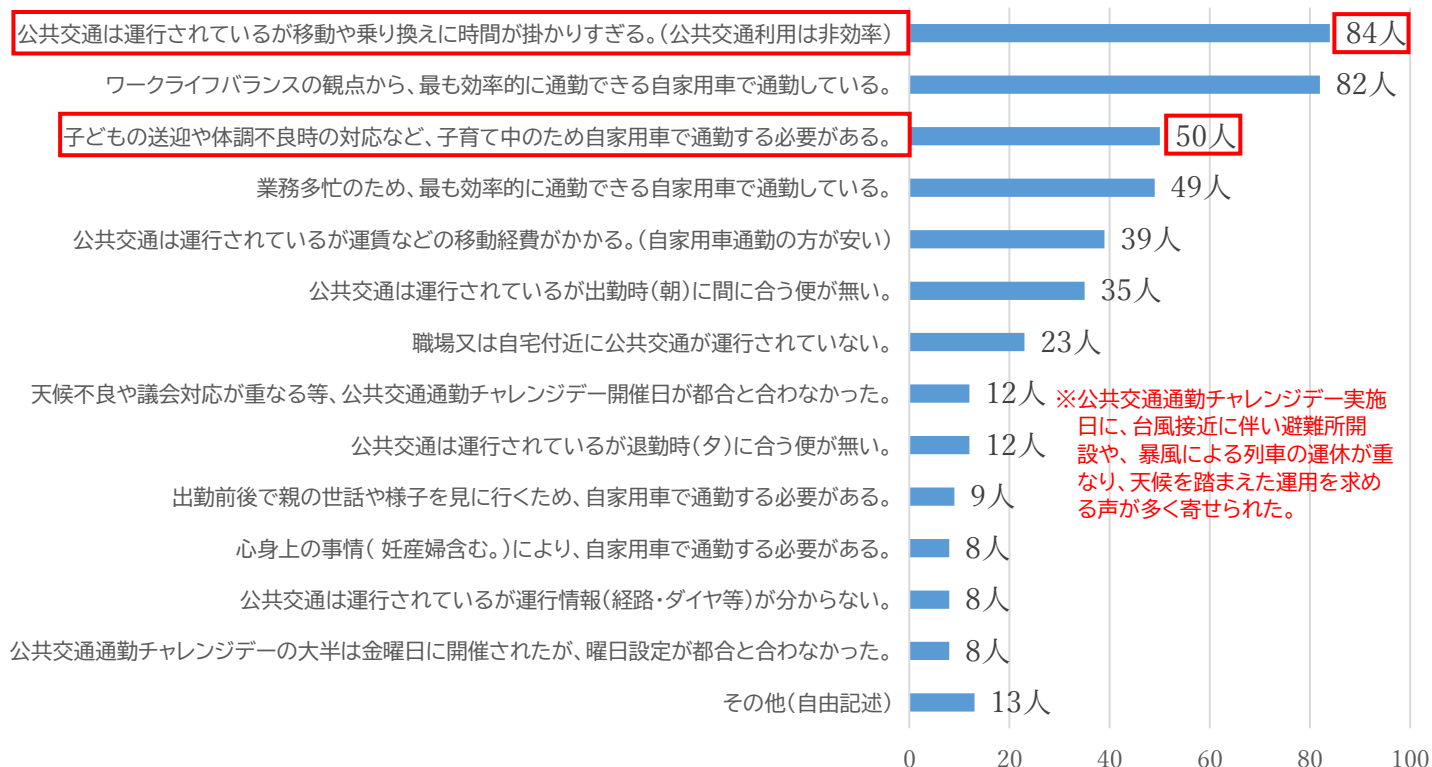
(19)公共交通通勤チャレンジデーで利用する公共交通の運行情報について、知っていましたか。 **N=183**



(20)公共交通通勤チャレンジデー実施後の通勤手段について、当てはまるものに“○”を付けて下さい。N=183



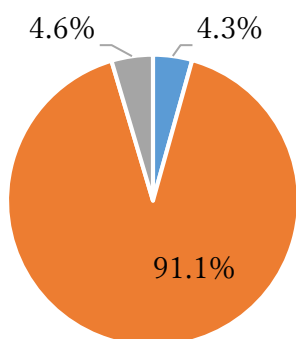
(21)公共交通通勤チャレンジデーに1日も参加できなかった方にお伺いします。
1日も参加できなかった理由について、特に当てはまるものを最大3つまで選択して下さい。N=209



【Point】

- 公共交通を利用できる環境にあるものの、子育てのほか、効率性や速達性を重視する結果、自家用車通勤が多い実態。
- その他、帰宅時間が遅くなった場合や、緊急時でも対応できる備えとして自家用車通勤が選ばれている。

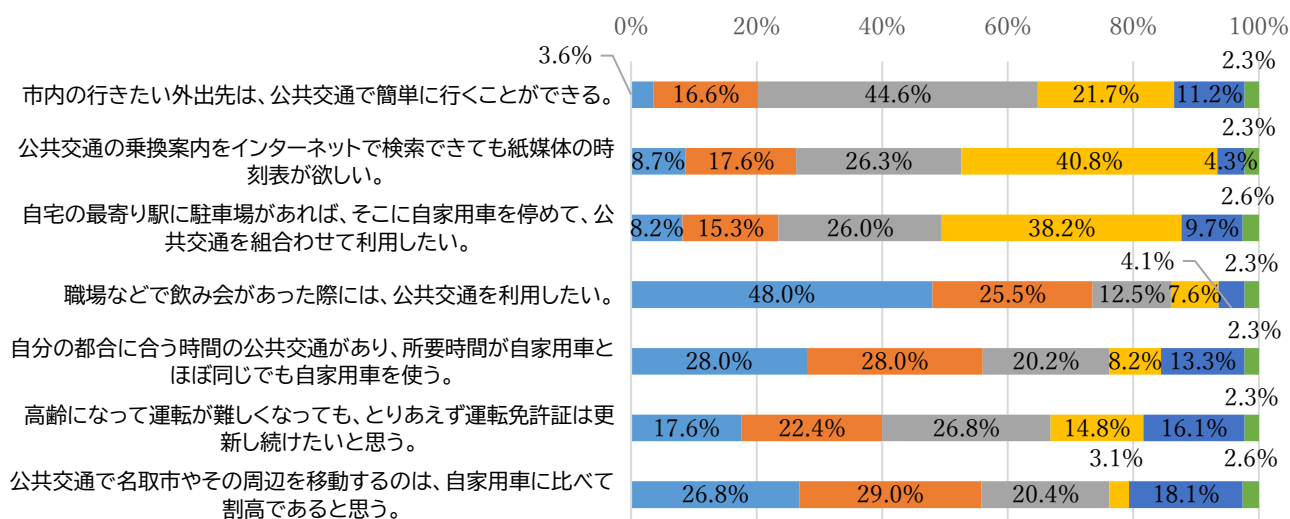
(22)公共交通通勤チャレンジデーの実施前後を比較し、公共交通を利用する頻度は増加しましたか。N=392



選択肢	回答件数	割合(%)
増加した	209人	4.3%
変わらない	28人	91.1%
未回答	16人	4.6%
合計	392人	100.0%

■ 増加した ■ 変わらない ■ 未回答

(23)市内を運行する公共交通に対して、ご自身の考え方に最も近いものを5段階の中から1つ選択して下さい。N=392



■ とてもそう思う ■ ややそう思う ■ あまり思わない ■ 全く思わない ■ 分からない ■ 未回答

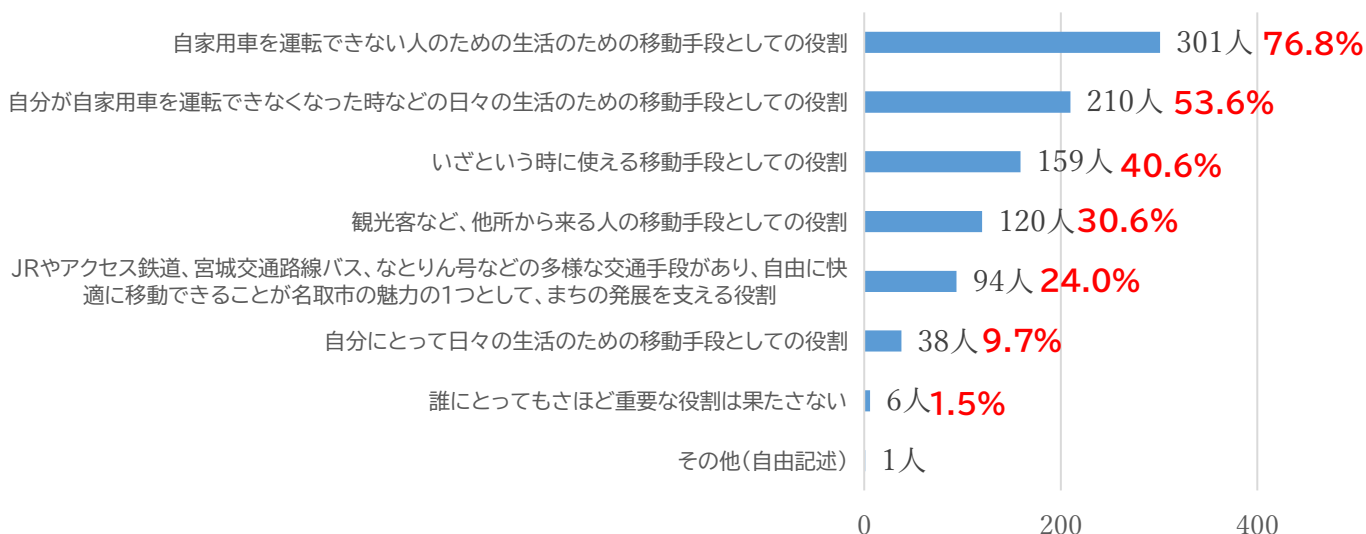
(24)これからの名取市の公共交通についてお尋ねします。

名取市が運行主体である「なとりん号」は平成20年4月に産声を上げ、市民生活に欠かせない足として運行してきましたが、**日中時間帯の非効率的な運行**や、自宅近くにバス停がない**交通空白地帯の解消**、今後も増加が予測される**高齢者の移動手段の確保**といった運行上の課題がありました。

これらの課題解消を図るため、令和5年10月より「バス路線（なとりん号）」については運行ダイヤ・ルートの見直しを行い、さらには、生活路線の代替としてAIデマンド交通「なとりんくる」を実証実験として導入し、令和6年度から本格運行を行うこととしております。

人口減少・少子高齢局面にあるほか、新型コロナによる生活様式の変容など、**公共交通利用者数は全国的に減少傾向**となっております。市民生活や来訪者の足として欠かせない公共交通を維持・確保し、持続可能なまちづくりにつなげていくためには、**多くの皆様に公共交通を利用してもらい、みんなで公共交通を育てていくことが重要**です。この事を踏まえ、以下の設問をご回答ください。

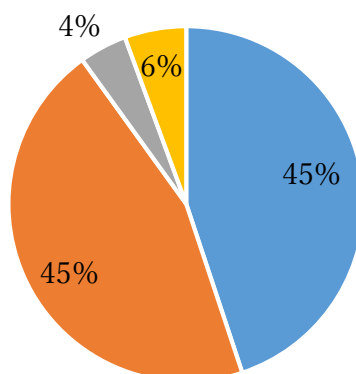
(24)名取市にとって、公共交通はどのような役割を担っていると思いますか。以下の選択肢から、特に当てはまるものを3つまで選択して下さい。(最大3つ) **N=392**



【Point】 公共交通通勤チャレンジデー実施前後比較

- ・自家用車を運転できない人のための生活のための移動手段としての役割と回答した割合
実施前：82.6% 実施後：76.8% (△5.8%)
- ・JRやアクセス鉄道、宮城交通路線バス、なとりん号などの多様な交通手段があり、自由に快適に移動できることが名取市の魅力の1つとして、まちの発展を支える役割と回答した割合
実施前：24.5% 実施後：24.0% (△0.5%)
- ・自分にとって、日々の生活のための移動手段としての役割と回答した割合
実施前：11.5% 実施後：9.7% (△1.8%)

(24-1)名取市における今後の公共交通の在り方について、あなたの考えに最も近いものを1つ選択して下さい。 **N=392**



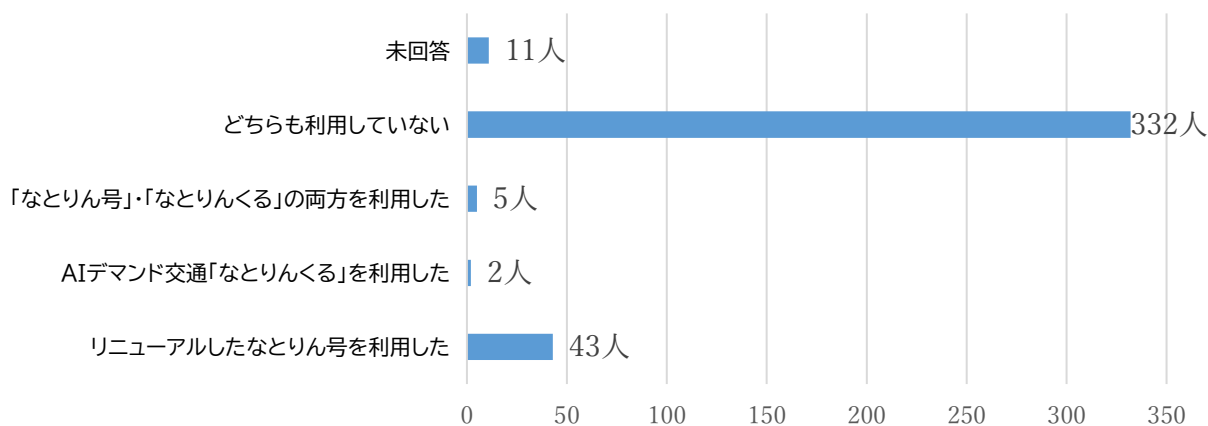
- 費用負担は現状を維持し、その中で公共交通サービスをより充実させるべき
- 利用促進の取組を行い、みんなで公共交通を支えるという気運を醸成することが重要である
- 公共交通サービスが悪くなくても構わないので、市民の費用負担を減らすべきだ
- 未回答

【Point】 公共交通通勤チャレンジデー実施前後比較

- ・公共交通サービスを維持・確保するため、より多くの人に利用してもらえるよう利用促進の取組を行い、みんなで公共交通を支えるという気運を醸成することが重要であると回答した割合
実施前：82.6% 実施後：76.8% (△5.8%)

(24-2)リニューアルした「なとりん号」・「なとりんくる」を利用しましたか。

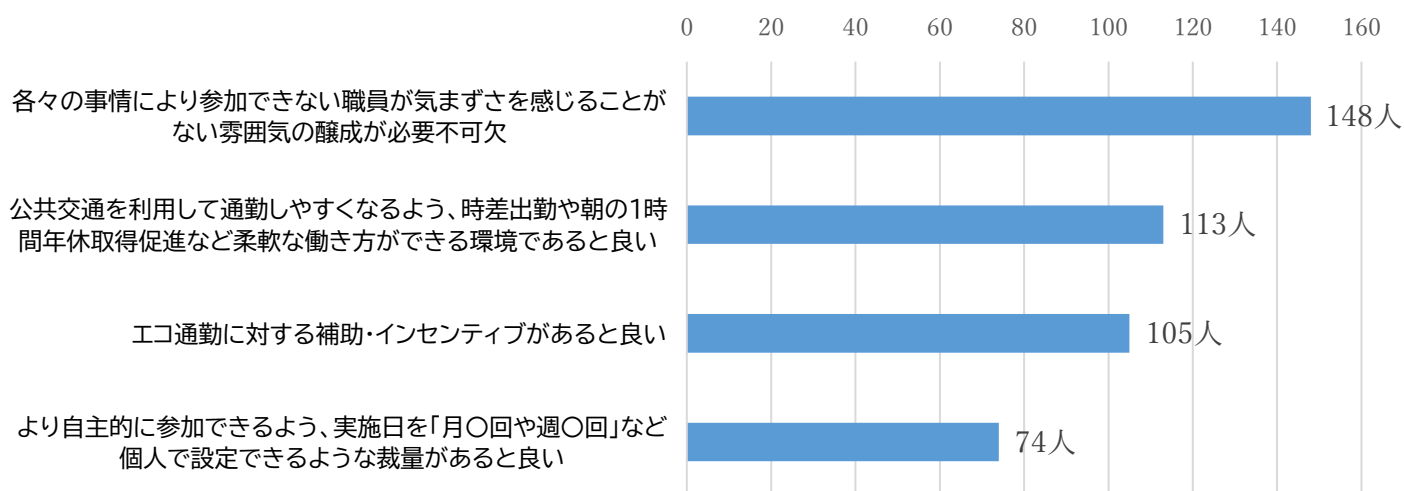
N=392



【Point】（※自由意見抜粋）

- ・交通系ICカードを利用できるようにしてほしい。
- ・「なとりん号」車両が新しく生まれかわり、快適である。
- ・バスロケーションシステム等のデジタル技術によって、利便性が向上した。
- ・土日祝日の運行便数及び、朝早くと夜遅くの便数を増やしてほしい。
- ・「なとりんくる」の指定乗降場所が分かりにくい。
- ・「なとりんくる」の運行時間を延長してほしい。

(25)公共交通通勤チャレンジデーの在り方に対するあなたの考えに当てはまるものを選択して下さい。(複数回答可) N=392



【Point】

- ・公共交通通勤チャレンジデー制度に関する要望よりも、自家用車でないと通勤できない職員に対する理解の醸成を求める声が最も高い結果となった。「エコ通勤」の推進にあたっては、様々な事情を配慮した上で実施することが重要である。